

## 託乗寺 —唐津街道青柳宿の寺—



託乗寺 地図



本堂



門札

唐津街道青柳宿の東、為息庵から街道を西へ約100mほど歩くと託乗寺の山門が道路沿いに建っています。山門を入ると真直ぐ本堂に向かう石畳が続き、その左脇に堂々とした鐘楼があって、朝夕、青柳の町に時を告げています。

到關山託乗寺、浄土真宗西本願寺派の寺で享禄四年(1531)空西により創建され、中本山博多萬行寺の末寺で、寛永十七年(1640)に本山から寺号木仏を許されています。

『託乗寺本尊縁起』等から由緒をたどると、相模守北條氏の子孫が正応元年(1288)出家して筑前国早良郡身正寺村に居住。のち青柳村の天台宗良泉寺に移転し、享禄四年(1531)に創建されました。

良泉寺の住民が青柳町に移って青柳宿ができた時に、寺も現在地に移ったようです。浄土真宗の高僧教如上人(のちの東本願寺十二世)が文禄三年(1594)豊臣秀吉の文禄・慶長役の折、名護屋城に陣中見舞いに訪れた途中良泉寺で一夜を求めた際に、良泉寺の唯念和尚は上人の徳行にいたく感服して帰依し、上人に随行して上洛し修行しました。慶長三年(1598)帰国の際に本尊阿弥陀如来二体を賜り、のち本願寺宣如上人より寺号・御本尊の裏書を下され、天台宗を浄土真宗(本願寺派)に改宗し、寺号も託乗寺に改め青柳町に移しました。

後の代の琳伽和尚が隠退のとき、長男願寿が浄土真宗本願寺派として託乗寺を継承し、二男願念が寛文四年(1664)三苦に移り、般若寺を再興して浄土真宗東本願寺派、轡納山託乗寺としました。本尊の阿弥陀如来像は一体ずつ分かち、現在に至っています。

御本尊の木彫阿弥陀如来像は本堂の中央に安置され、聖徳太子御影と仏門七高僧御影(ともに元文四年(1739)四月五日の奥書あり)の掛軸が左右に掛けられています。高祖



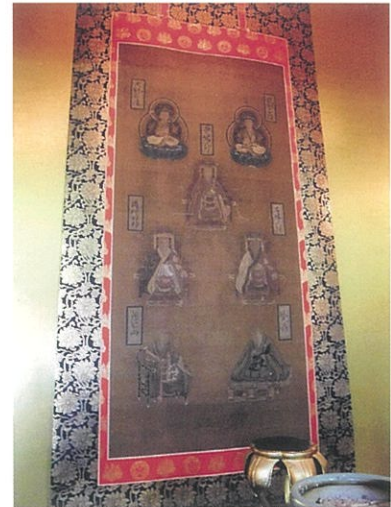
由緒(本堂横の碑)



聖徳太子御影



御本尊 阿弥陀如来像



七高僧御影

親鸞聖人御影（本願寺宣如上人御判の裏書あり）とともに大切な法寶物です。

十六世法溟上人は「崇信教校」（僧侶になる人の学校）を青柳町に建設して、熱心に門弟の教育にあたりました。青柳宿が江戸時代から明治時代にかけて三度の火災にあっており、その影響もあって寺に伝わる貴重な資料類で焼失したものも多いということです。



菊の御紋の鬼瓦

さらに境内本堂横には、銅板の菊の御紋が施された立派な鬼瓦が保存されています。これは昭和三十年代の寺の修復時に、中央の御紋がセメントで塗り込められていたものが剥ぎ落とされて見つかったもので、関係者を大いに驚かせたといわれます。往時を偲ぶよすがの一つとなっています。

お寺では毎年、一月の報恩講、四月の永代経、十二月の除夜会という代表的な行事が執り行われています。



託乗寺本尊縁起 古賀町誌



鐘楼